

---

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

# TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

## 東京都感染症週報

2008年第47週  
(11月17日～11月23日)

- \* 2008年11月26日現在の情報により作成しています。  
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。  
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- \* 今週は感染症豆知識「インフルエンザの治療薬」も掲載しています。

平成20(2008)年11月27日発行

編集・発行

東京都医師会感染症予防検討委員会  
東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)  
FAX：03-5332-7365  
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

---

## 全数把握対象疾患 報告数 2008年47週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				年累計	全国(診断週)	
		44週	45週	46週	47週		47週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							1
	結核	88	65	66	76	3914	322	24679
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *							
	鳥インフルエンザ (H5N1) **							
三類	コレラ					6		45
	細菌性赤痢	1	1	1	1	59	6	281
	腸管出血性大腸菌感染症	5	6	4	3	389	32	4128
	腸チフス	1				12		51
	パラチフス					5		25
四類	E型肝炎					7	1	41
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎		1		1	28	4	161
	エキノкокクス症							16
	黄熱							
	オウム病							8
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱					1		3
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							2
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病			4	1	10	26	250
	デング熱	3		2		30	1	95
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						2	109
	日本脳炎							3
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							4
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							2
マラリア			1		22	1	50	
野兎病							4	
ライム病							4	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症		2	2	1	74	11	805	
レプトスピラ症		1			4		36	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		44週	45週	46週	47週	年累計	47週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	3	2	6	3	174	7	756
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	3		1		29	1	211
	急性脳炎 ***			1		10	1	166
	クリプトスポリジウム症					4		9
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1		1	14	1	137
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					19	3	106
	後天性免疫不全症候群	16	14	10	13	498	13	1370
	ジアルジア症					19		69
	髄膜炎菌性髄膜炎					2		10
	先天性風しん症候群							1
	梅毒	3	2	6	3	177	9	736
	破傷風					5		112
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	1			13		76
	風しん			1	1	43	3	289
麻しん	2	3	2	1	1166	10	10934	
2008/11/26集計								

\* 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

\*\* 2008年5月12日から指定された。

\*\*\* ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

### (全数把握対象疾患のコメント)

#### 〈二類感染症〉

**結核 76件** 肺結核45件、その他31件で、推定感染地は国内72件、中国1件、タイ1件、不明2件。年齢は10歳未満2件(うち5歳未満1件)、20歳代9件、30歳代4件、40歳代11件、50歳代11件、60歳代16件、70歳代13件、80歳代7件、90歳代3件であった。

#### 〈三類感染症〉

**細菌性赤痢 1件** ソンネで、推定感染地はベトナム、推定感染経路は飲食物による経口感染であった。  
**腸管出血性大腸菌感染症 3件** 無症状病原体保有者3件で、血清型・毒素型はO157(VT1VT2) 1件、O111(VT1VT2) 1件、血清型不明(VT2) 1件であった。年齢は5歳未満1件、30歳代1件、50歳代1件であった。O111(VT1VT2)の1件は、大田区内の保育園におけるO111(VT1VT2)集団発生に関連して第42週に報告されていた患者だが、菌陰性化確認後に再度陽性となったために報告された。

#### 〈四類感染症〉

**A型肝炎 1件** 推定感染地はアフガニスタンで、推定感染経路は性的接触(相手の性別不明)であった。  
**つつが虫病 1件** 推定感染地は多摩地域で、感染経路は不明であった。  
**レジオネラ症 1件** 肺炎型の40歳代男性。推定感染地は国内。感染経路は不明で、水系感染(入浴施設または自宅風呂)、塵埃感染(大工業務)のいずれも可能性がある。

#### 〈五類感染症〉

**アメーバ赤痢 3件** 腸管アメーバ症2件、腸管及び腸管外アメーバ症1件で、推定感染地は国内1件、フィリピン1件、インドネシア1件、推定感染経路は飲食物による経口感染2件、不明1件であった。  
**クロイツフェルト・ヤコブ病 1件** 遺伝性プリオン病の家族性CJDで、60歳代。  
**後天性免疫不全症候群 13件** 無症候キャリア11件、その他2件で、推定感染地は国内12件、中国/韓国/インドネシア1件で、推定感染経路はすべて性的接触(同性間9件、異性間3件、両性間1件)であった。  
**梅毒 3件** 早期顕症梅毒Ⅱ期2件、無症候梅毒1件で、推定感染地はすべて国内、推定感染経路はすべて性的接触(同性間1件、異性間2件)であった。  
**風しん 1件** 臨床診断例の10歳未満。風しん含有ワクチン接種歴は不明であった。  
**麻しん 1件** 麻しん(検査診断例)の20歳代。麻しん含有ワクチン接種歴は無かった。

※第46週該当分として、五類 麻しん 1件(修飾麻しん(検査診断例)、30歳代、麻しん含有ワクチン接種歴1回)の追加報告があった。

## 定点把握対象疾患 報告数 2008年47週

定点種別	対象疾患	2008年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		44週	45週	46週	47週 (定点当たり)			
小児科	RSウイルス感染症	156	114	106	122	0.84	146	150
	咽頭結膜熱	27	33	32	40	0.27		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	234	185	284	332	2.27		
	感染性胃腸炎	678	730	1,209	1,589	10.88		
	水痘	111	120	204	152	1.04		
	手足口病	129	98	80	76	0.52		
	伝染性紅斑	26	15	17	17	0.12		
	突発性発しん	102	83	107	93	0.64		
	百日咳	4	1	5	7	0.05		
	ヘルパンギーナ	14	20	15	13	0.09		
	流行性耳下腺炎	70	102	81	81	0.55		
	不明発しん症 (注1)	28	11	5	19	0.13		
MCLS(川崎病) (注1)	0	3	2	4	0.03			
インフルエンザ	インフルエンザ (注2)	11	30	77	150	0.53	282	290
眼科	急性出血性結膜炎	1	0	0	0	0.00	37	39
	流行性角結膜炎	12	13	11	12	0.32		
基幹	細菌性髄膜炎 (注3)	1	0	3	1	0.04	24	24
	無菌性髄膜炎	0	0	2	1	0.04		
	マイコプラズマ肺炎	8	16	9	13	0.54		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	2	0	0	0	0.00		
2008/11/26集計								

(注1) 不明発しん症、MCLS(川崎病) は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

# 風しん、麻しん、成人麻しんは2008年第1週より全数把握対象疾患に変更。

### (定点把握対象疾患のコメント)

- ・RSウイルス感染症の定点当たり報告数は微増した。例年は年末にかけて増加する傾向にあるので、引き続き注意が必要である。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は増加した。2007年の同時期と同様に過去5年平均よりも高いレベルにあり、注意が必要である。
- ・感染性胃腸炎の定点当たり報告数は増加した。過去の傾向を見るとさらに増加する可能性があるため、注意が必要である。
- ・百日咳の定点当たり報告数は微増した。週毎の変動は大きいですが、第41週頃から値の大きい方に振れており、今後の推移に注意が必要である。
- ・マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加した。最近5週間は比較的高いレベルで推移しており、注意が必要である。

### (定点医療機関からのコメント)

町田保健所管内定点医療機関

- ・感染性胃腸炎20名。

多摩小平保健所管内定点医療機関

- ・マイコプラズマ肺炎1例。

目黒区保健所管内定点医療機関

- ・上気道炎の発症は認めるがインフルエンザの検査は陰性。

\* インフルエンザに関するコメントは13頁にまとめて記載しました。

## 定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2008年47週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月	19			16	6			5		
～11か月	21	2	3	99	7	3		36		3
1歳	43	2	15	270	23	14	2	43		2
2歳	19	6	20	176	26	14	2	7		1
3歳	4	13	34	153	22	12	1	1		
4歳	4	8	33	163	28	15	3	1		1
5歳	5	2	45	129	17	5	2		1	2
6歳		2	36	92	11	1	2			2
7歳		2	36	83	3	3	2			
8歳		1	25	55	3	4	1			1
9歳	1	1	19	40	1	2			2	
10～14歳		1	36	113	2	1	1		1	
15～19歳			3	28						
20～29歳	6		27	172	3	2	1		3	1
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	122	40	332	1589	152	76	17	93	7	13
先週比	16	8	48	380	-52	-4		-14	2	-2

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月		1				
～11か月		4		3		
1歳	5	3	2	15		
2歳	4	3	1	9		
3歳	16	3	1	7		
4歳	10	3		12		2
5歳	13			10		
6歳	10			6		
7歳	4			16		
8歳	6	1		11		
9歳	6			5		
10～14歳	6	1		24		
15～19歳	1					1
20～29歳				9		
30～39歳				11		1
40～49歳				8		2
50～59歳				1		4
60～69歳						2
70～79歳				3		
80歳以上						
合計	81	19	4	150		12
先週比		14	2	73		1

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

### 全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2008年47週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		
2歳		
3歳		
4歳		
5歳	1	
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳		
20～29歳		1
30～39歳		
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計	1	1

## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2008年47週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田	4			14				1		
中央区				23		1		1	1	
みなと	4	4	60	21				2		
新宿区	7	1	11	36	5	3		2		
文京		1	3	12		3	1	1		
台東	4		4	33	3	2		4		
墨田区	3		2	21	6	2		2		
江東区	6		8	87	8	6				2
品川区	3		4	70	1	4	1	8		
目黒区			2	10	1	1		3		
大田区	7		15	93	8	6	4	2	2	3
世田谷	5		9	82	6	3		3		2
渋谷区				43	4					
中野区			9	56	10	1				
杉並	3	2	12	76	2	1		3		
池袋				10	2	2		2		
北区			6	44	5		1	8		
荒川区	6	1	7	30	2	4		3		
板橋区			2	22	3	2		1	2	
練馬区		1	4	42	3	5	2	3		1
足立	3		7	41	13		2	5		
葛飾区			8	17	1	2		3		
江戸川	2	9	47	30	5	3	1	9		2
八王子市	14	8	34	128	10	8	1	4	2	
西多摩	5	3	17	35	10	2		1		
南多摩	14	2	5	82	6			1		1
町田	1		25	191	16	7	3	12		1
多摩立川		1	3	34	2	1				
多摩府中	3		10	54	14	3		7		
多摩小平	28	7	18	152	5	4	1	2		1
島しょ					1					
東京都合計	122	40	332	1,589	152	76	17	93	7	13

全数把握対象疾患  
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2008年47週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田	2	1		2		
中央区				2		
みなと				1		
新宿区		1		3		1
文京	1			1		1
台東	2					
墨田区	4			2		
江東区	6	1		4		
品川区	2	1		18		
目黒区				2		
大田区	5	2		1		
世田谷	9	2		5		
渋谷区	1					
中野区	1			3		
杉並	1			1		1
池袋	1		1	2		
北区	1			7		
荒川区	3			2		
板橋区	1		1	1		1
練馬区	1		1	19		2
足立	8	1		6		
葛飾区	3	2		6		
江戸川	5					2
八王子市	7	5		4		2
西多摩	1					
南多摩	2					
町田	10	2	1	11		
多摩立川				1		1
多摩府中	2			22		
多摩小平	2	1		24		1
島しょ						

東京都合計	81	19	4	150	-	12
-------	----	----	---	-----	---	----

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		
新宿区		
文京		
台東		
墨田区		
江東区		
品川区		
目黒区		
大田区		
世田谷		
渋谷区		
中野区		
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		
練馬区		
足立		
葛飾区		
江戸川		
八王子市	1	
西多摩		1
南多摩		
町田		
多摩立川		
多摩府中		
多摩小平		
島しょ		

東京都合計	1	1
-------	---	---

## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2008年47週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田	1.33			4.67				0.33		
中央区				7.67		0.33		0.33	0.33	
みなと	0.67	0.67	10.00	3.50				0.33		
新宿区	1.17	0.17	1.83	6.00	0.83	0.50		0.33		
文京		0.33	1.00	4.00		1.00	0.33	0.33		
台東	1.33		1.33	11.00	1.00	0.67		1.33		
墨田区	1.00		0.67	7.00	2.00	0.67		0.67		
江東区	1.50		2.00	21.75	2.00	1.50				0.50
品川区	0.50		0.67	11.67	0.17	0.67	0.17	1.33		
目黒区			0.67	3.33	0.33	0.33		1.00		
大田区	0.78		1.67	10.33	0.89	0.67	0.44	0.22	0.22	0.33
世田谷	0.63		1.13	10.25	0.75	0.38		0.38		0.25
渋谷区				10.75	1.00					
中野区			1.50	9.33	1.67	0.17				
杉並	0.50	0.33	2.00	12.67	0.33	0.17		0.50		
池袋				2.50	0.50	0.50		0.50		
北区			1.50	11.00	1.25		0.25	2.00		
荒川区	3.00	0.50	3.50	15.00	1.00	2.00		1.50		
板橋区			0.33	3.67	0.50	0.33		0.17	0.33	
練馬区		0.20	0.80	8.40	0.60	1.00	0.40	0.60		0.20
足立	0.75		1.75	10.25	3.25		0.50	1.25		
葛飾区			2.00	4.25	0.25	0.50		0.75		
江戸川	0.50	2.25	11.75	7.50	1.25	0.75	0.25	2.25		0.50
八王子市	3.50	2.00	8.50	32.00	2.50	2.00	0.25	1.00	0.50	
西多摩										
南多摩	3.50	0.50	1.25	20.50	1.50			0.25		0.25
町田	0.25		6.25	47.75	4.00	1.75	0.75	3.00		0.25
多摩立川		0.17	0.50	5.67	0.33	0.17				
多摩府中	0.30		1.00	5.40	1.40	0.30		0.70		
多摩小平	4.67	1.17	3.00	25.33	0.83	0.67	0.17	0.33		0.17
島しょ					1.00					

東京都	0.84	0.27	2.27	10.88	1.04	0.52	0.12	0.64	0.05	0.09
-----	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------

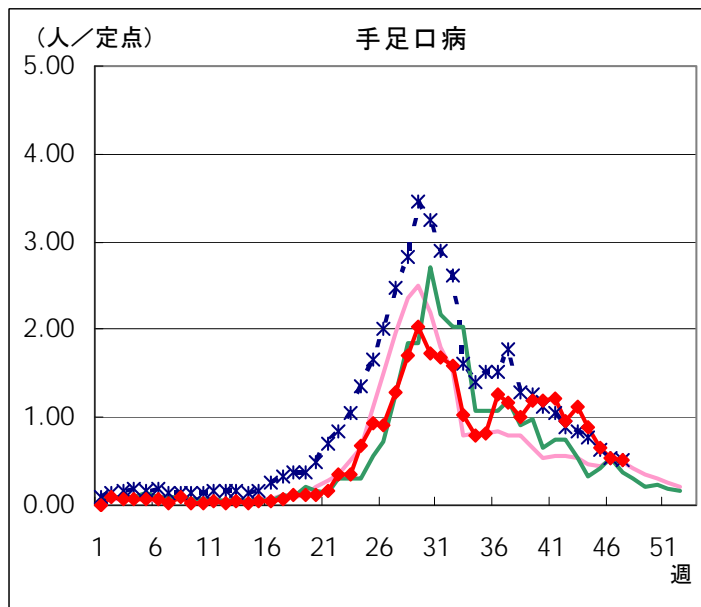
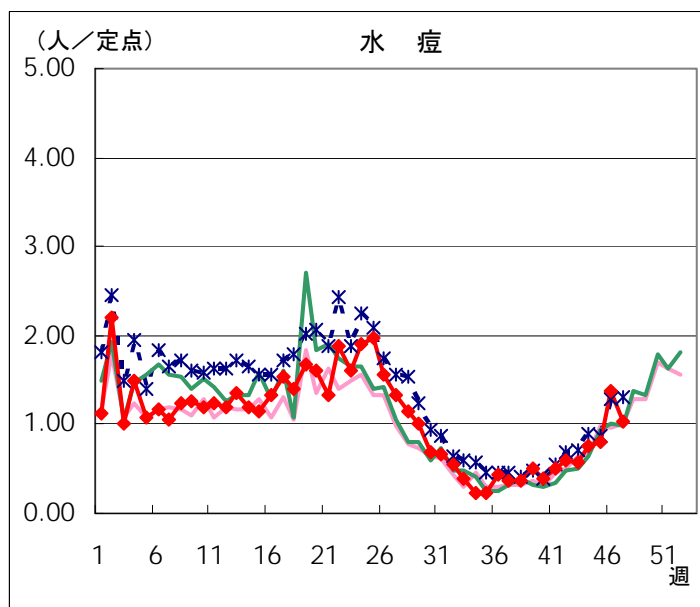
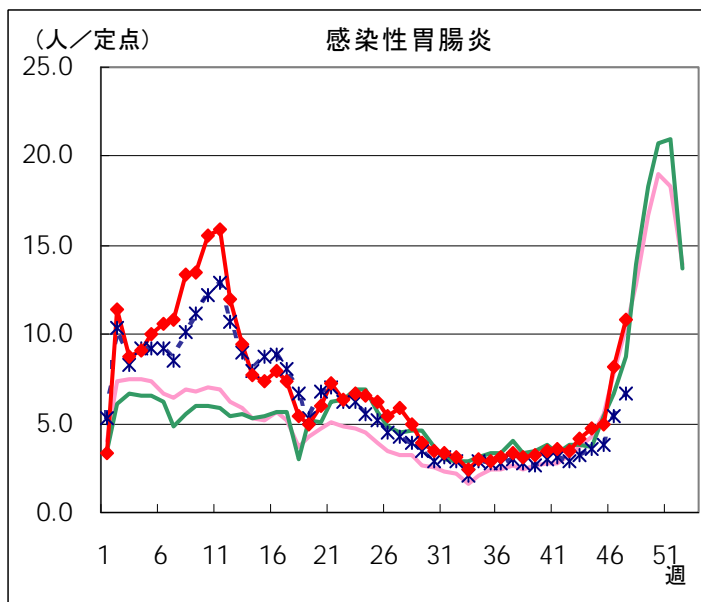
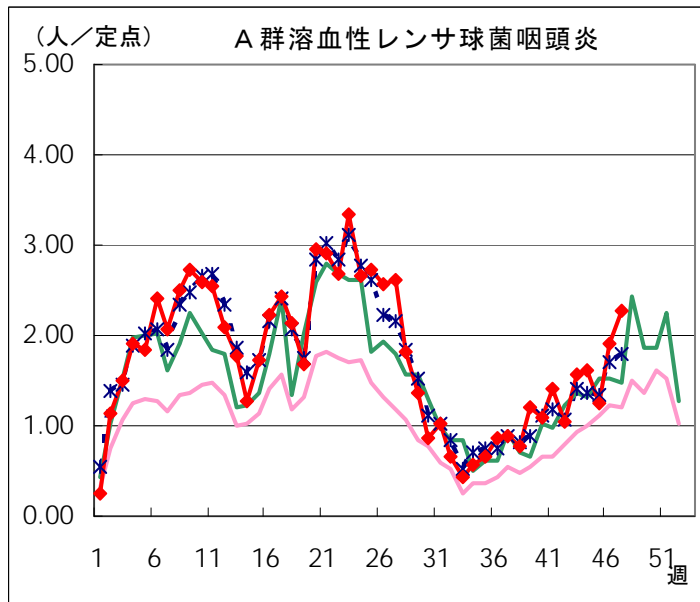
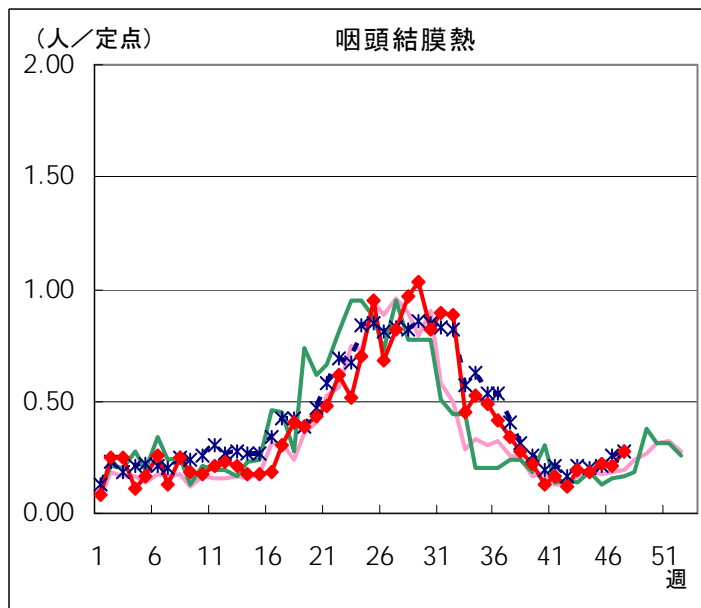
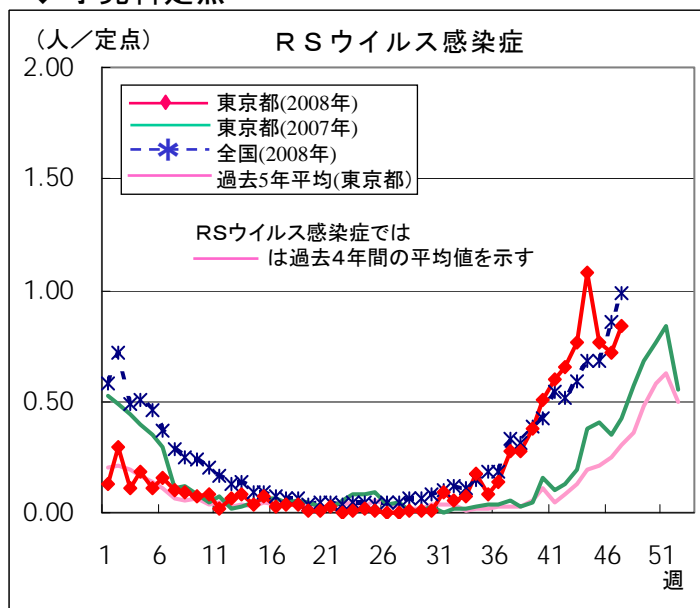


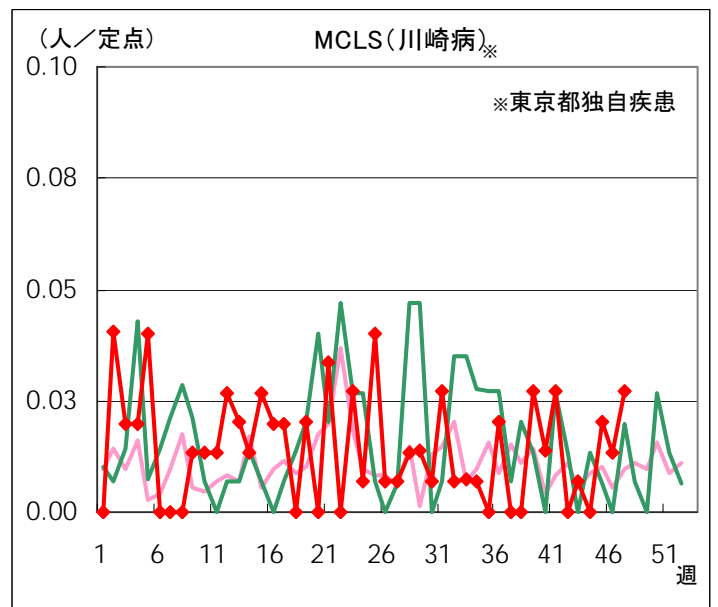
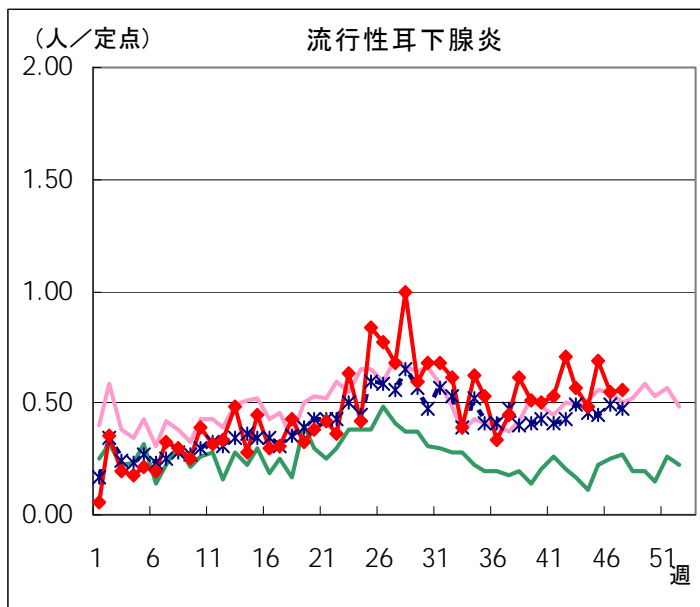
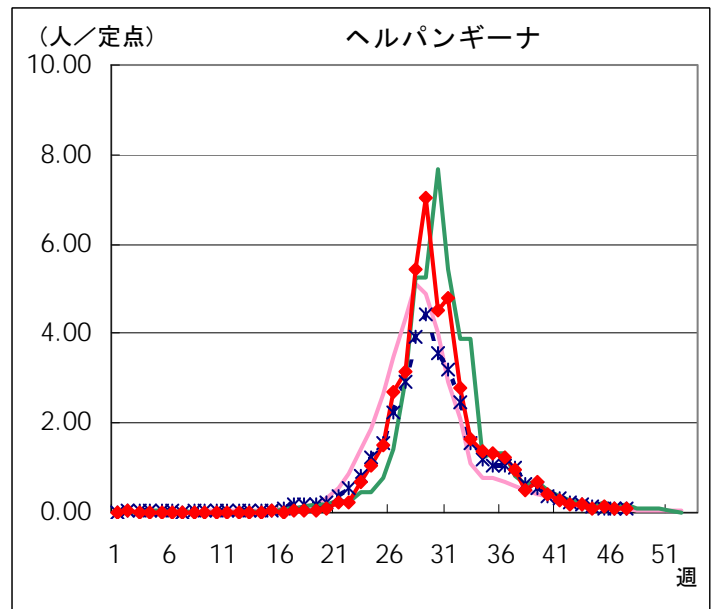
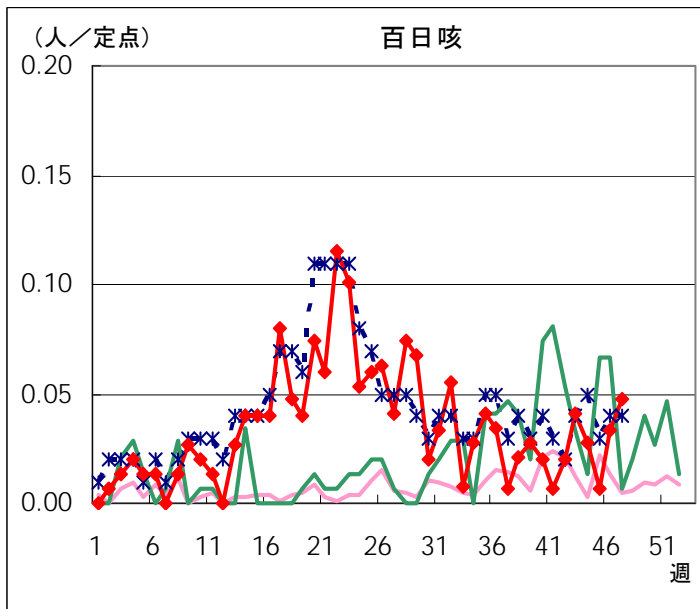
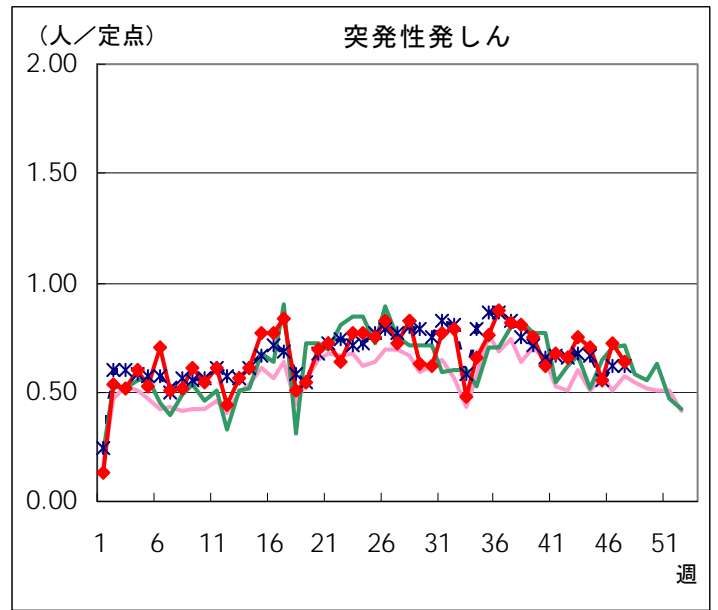
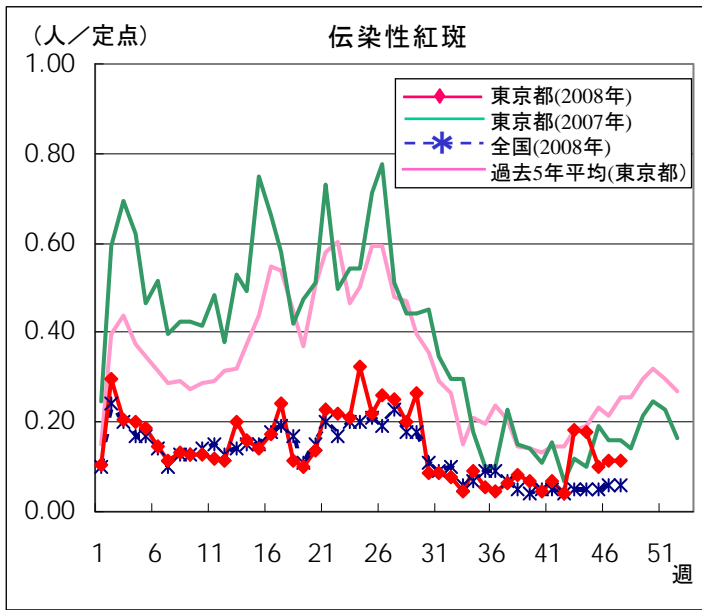
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田	0.67	0.33		0.50		
中央区				0.50		
みなと				0.13		
新宿区		0.17		0.33		0.50
文京	0.33			0.20		1.00
台東	0.67					
墨田区	1.33			0.33		
江東区	1.50	0.25		0.44		
品川区	0.33	0.17		1.80		
目黒区				0.33		
大田区	0.56	0.22		0.06		
世田谷	1.13	0.25		0.31		
渋谷区	0.25					
中野区	0.17			0.33		
杉並	0.17			0.08		1.00
池袋	0.25		0.25	0.33		
北区	0.25			1.00		
荒川区	1.50			0.50		
板橋区	0.17		0.17	0.08		0.50
練馬区	0.20		0.20	1.58		1.00
足立	2.00	0.25		0.55		
葛飾区	0.75	0.50		0.67		
江戸川	1.25					1.00
八王子市	1.75	1.25		0.40		1.00
西多摩						
南多摩	0.50					
町田	2.50	0.50	0.25	1.22		
多摩立川				0.08		0.50
多摩府中	0.20			1.05		
多摩小平	0.33	0.17		1.71		0.50
島しょ						

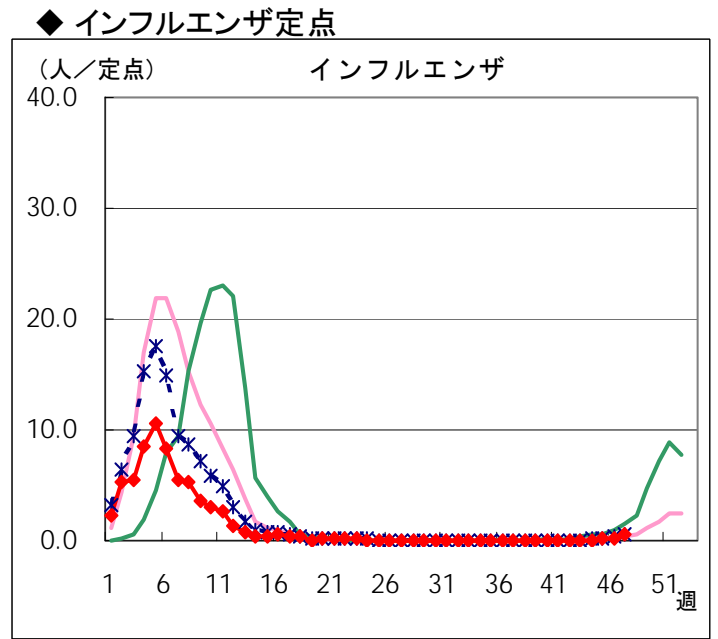
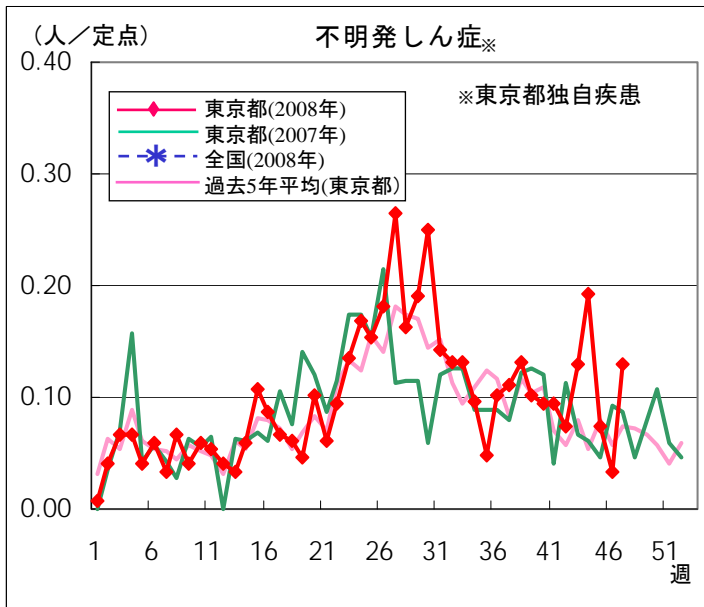
東京都	0.55	0.13	0.03	0.53	-	0.32
-----	------	------	------	------	---	------

# 定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2008年47週現在

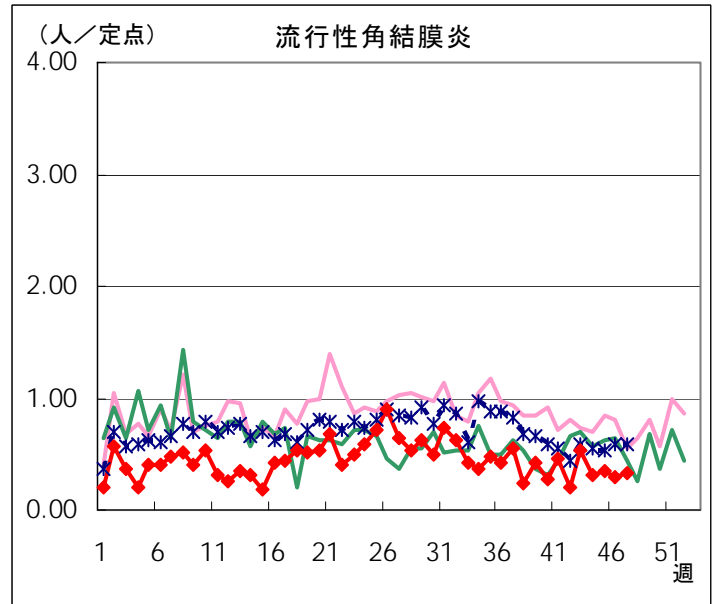
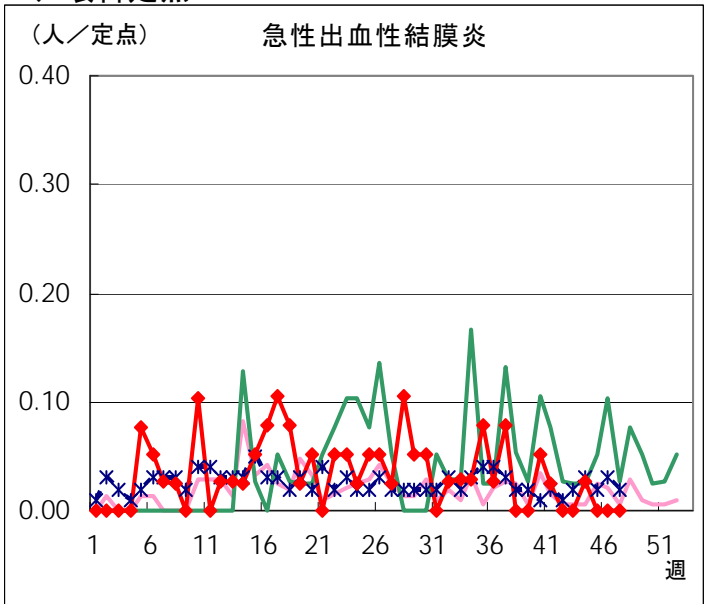
## ◆ 小児科定点



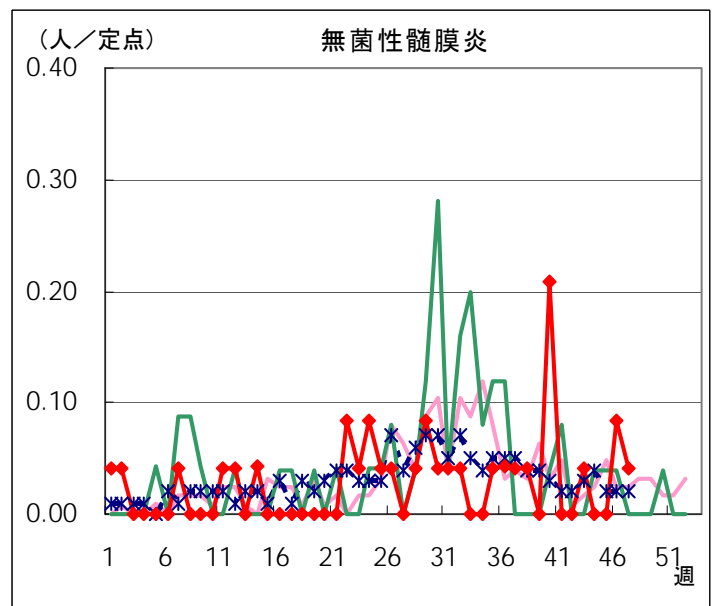
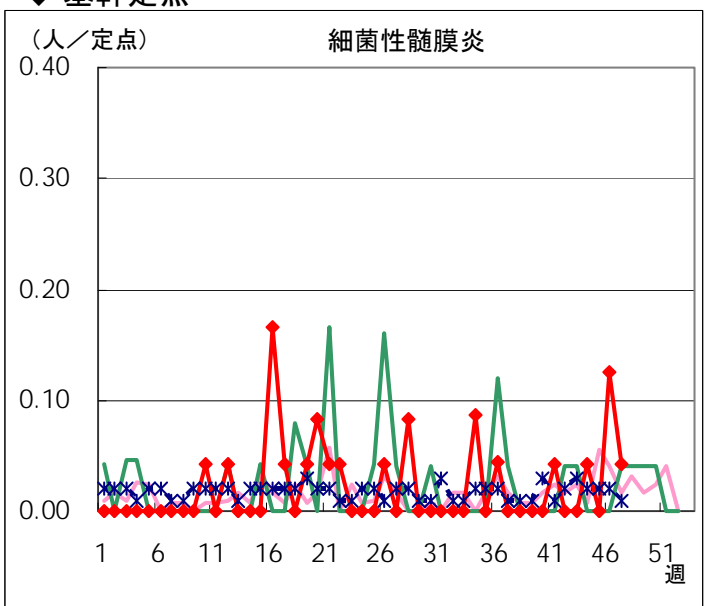


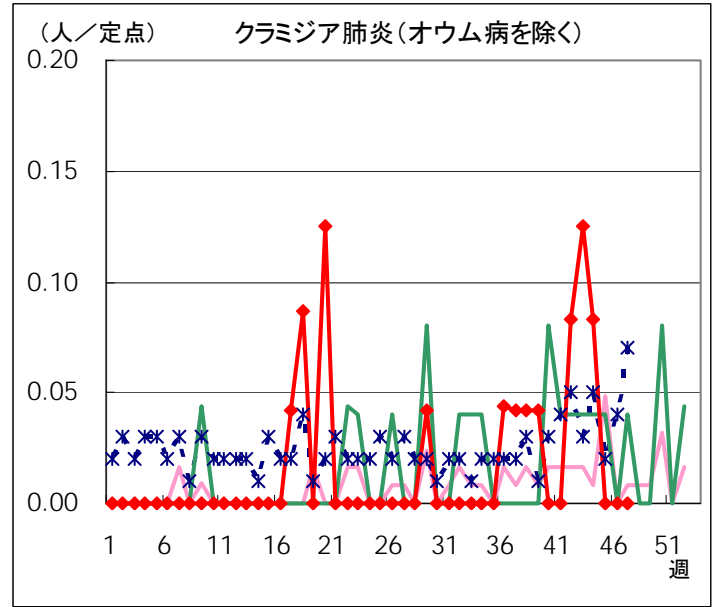
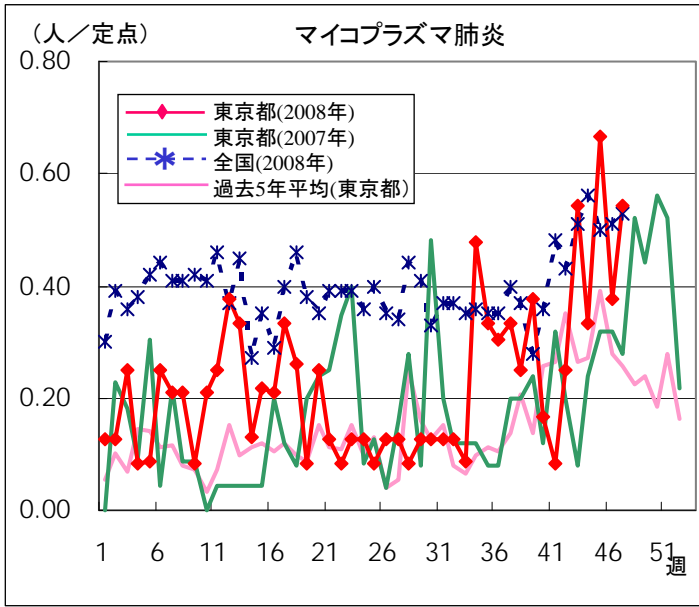


◆ 眼科定点

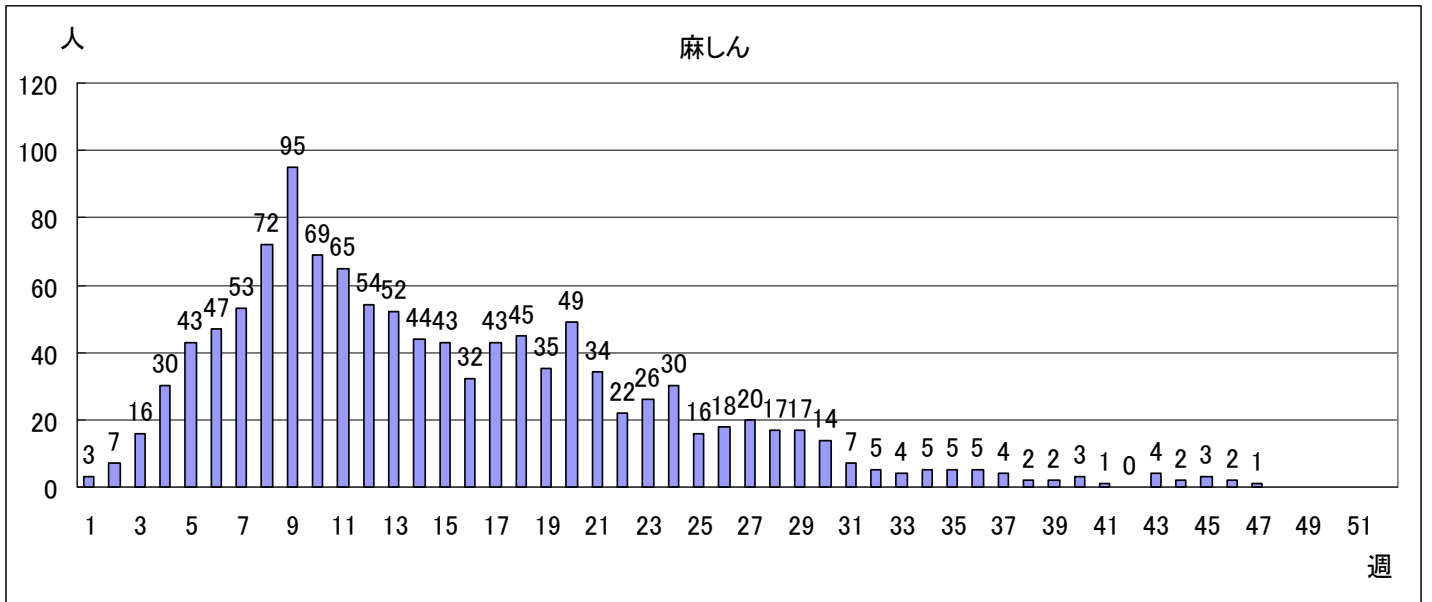


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2008年47週現在



## 定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント

各定点医療機関から、迅速診断キットを用いた検査の結果に関わるコメントをいただきましたので、コメントのあった医療機関ごとに下表にまとめました。

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		定点医療機関からのコメント
	A	B	
みなと	1		
新宿区	2		
	1		
目黒区	2		
中野区	2		
			臨床的にインフルエンザと診断。
池袋	1		
町田			休日診療時にインフルエンザ3名、平日に1名でした。
多摩立川	1		
多摩小平	5	6	
八王子市	3		
	1		

## 病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

\*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
10/23	溶連菌咽頭炎	9	咽頭拭い液	A群レンサ球菌T-1型	分離同定 血清型
10/24	手足口病	3	咽頭拭い液	エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス7型	遺伝子
10/29	ヘルパンギーナ	9	咽頭拭い液	EBウイルス	
10/30	不明発しん症(伝染性紅斑)	7M	咽頭拭い液	ライノウイルス	
11/4	手足口病	8M	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
11/4	ヘルパンギーナ	1	咽頭拭い液	アデノウイルス エンテロウイルス	
11/4	ヘルパンギーナ	4	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
11/5	インフルエンザ	41	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH3型	
11/5	毒素性ショック症候群	31	菌株(膿分泌物由来)	MSSAコアグラウゼ"IV型	
11/6	流行性耳下腺炎 無菌性髄膜炎	5	髄液	ムンプスウイルス	遺伝子
11/6	ヘルパンギーナ	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
11/6	流行性耳下腺炎	5	咽頭拭い液	ライノウイルス ムンプスウイルス	
11/6	肺炎	1	直腸拭い液	アデノウイルス	
11/6	肺炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス マイコプラズマ・ニューモニエ	
11/7	感染性胃腸炎	1	直腸拭い液	ノロウイルス	
11/7	流行性耳下腺炎	5	咽頭拭い液	ムンプスウイルス EBウイルス	
11/7	急性気管支炎	1	咽頭拭い液	RSウイルス	
11/7	急性細気管支炎	6M	咽頭拭い液	アデノウイルス RSウイルス	
11/7	感染性胃腸炎	8M	糞便	エンテロウイルス	
11/8	流行性耳下腺炎	6	咽頭拭い液	ライノウイルス ムンプスウイルス	
11/9	喘息性気管支炎	1	咽頭拭い液	RSウイルス	
11/10	急性気管支炎	4	咽頭拭い液	ライノウイルス	

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
11/10	急性気管支炎	1	咽頭拭い液	RSウイルス	遺伝子
11/10	急性気管支炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス RSウイルス	
11/10	急性気管支炎	2	咽頭拭い液	RSウイルス	
11/10	急性気管支炎	8M	咽頭拭い液	RSウイルス	
11/10	急性咽頭炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス エンテロウイルス	
11/10	インフルエンザ	73	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH3型	
11/11	ウイルス性発しん症	1	咽頭拭い液	ライノウイルス	
11/11	髄膜炎	20	咽頭拭い液	単純ヘルペスウイルス1型	
11/11	急性咽頭炎	5	咽頭拭い液	アデノウイルス	
11/11	百日咳疑い	6	咽頭拭い液	ライノウイルス	
11/11	感染性胃腸炎	40	糞便	ノロウイルス	
11/12	マイコプラズマ肺炎 RSウイルス感染症	2	咽頭拭い液	RSウイルス	
11/12	感染性胃腸炎	7M	糞便	エンテロウイルス ノロウイルス	
11/12	胃腸炎、肝機能異常	6	糞便	ノロウイルス	
11/12	感染性胃腸炎	1	糞便	ノロウイルス	
11/13	急性上気道炎	9	咽頭拭い液	アデノウイルス	
11/13	急性気管支炎	4M	咽頭拭い液	RSウイルス	
11/13	急性咽頭気管支炎	1	咽頭拭い液	RSウイルス	
11/13	胃腸炎	3M	糞便	ノロウイルス	
11/14	気管支炎	2M	咽頭拭い液	RSウイルス	

◇積極的疫学調査による搬入検体

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
記載なし**	バンコマイシン耐性腸球菌 感染症	50	菌株(血液由来)	腸球菌 ( <i>Enterococcus faecium</i> ) van A	遺伝子
10/22***	バンコマイシン耐性腸球菌 感染症	86	菌株(尿由来)	腸球菌 ( <i>Enterococcus faecium</i> ) van B	

\*\*44週、\*\*\*45週報告の全数把握対象疾患症例からの検体



病原体検査情報 【検出病原体別・週別】

検出病原体		2008年							
		39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週
ウイルス	アデノウイルス	4	3	18	6	14	18	5	8
	ライノウイルス		2	8	2	6	4	6	6
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス					1			
	エンテロウイルス71					4			
	その他のエンテロウイルス	11	11	16	8	14	5	8	8
	単純ヘルペスウイルス		1	1			1	1	1
	水痘・帯状疱疹ウイルス								
	ヘルペスウイルス6/7	7	6	9		12	3	4	1
	EBウイルス	3	2	1		3		2	2
	サイトメガロウイルス	3	1	3		4	1		
	ムンプスウイルス	2	2		3	2	1	4	4
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19								
	RSウイルス		2	9	7	7	10	10	11
	ノロウイルス					2	1		6
	ロタウイルス								
	インフルエンザウイルスAH1								
	インフルエンザウイルスAH3								2
	インフルエンザウイルスB				2			1	
デングウイルス									
その他のウイルス		1	1	1					
細菌	カンピロバクター			2					
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌						1	1	2
	溶血性レンサ球菌	1	1	1				2	1
	その他の細菌	4			1		1		1
その他の病原体							3		1

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2008年39週～46週

臨床診断名 検出病原体	インフル エンザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 連 菌 咽 頭 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	ヘル パン ギー ナ	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	不 明 発 し ん 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	水 痘	麻 し ん	風 し ん	そ の 他	
搬入検体数	11	54	90	44	58		5	5	6	9		29	17	4			167	
ウイルス	アデノウイルス		22	21	4	3		2	1	3		3	6				11	
	ライノウイルス		5	15		2						4	2				6	
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群																	
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	1
	エンテロウイルス71			1	1	2												
	その他のエンテロウイルス		8	14	6	6	7		4	9		8						19
	単純ヘルペスウイルス					2												3
	水痘・帯状疱疹ウイルス																	
	ヘルペスウイルス6/7		2	1					1	1		13		2				22
	EBウイルス		1						1			1	5					5
	サイトメガロウイルス		1							1		4	1					5
	ムンプスウイルス					4								10	3			1
	麻しんウイルス																	
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19																	
	RSウイルス		7	48														1
	ノロウイルス				9													
	ロタウイルス																	
	インフルエンザウイルスAH1																	
インフルエンザウイルスAH3	2																	
インフルエンザウイルスB	3																	
デングウイルス																		
その他のウイルス			3															
細菌	カンピロバクター				2													
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																4	
	溶血性レンサ球菌							5									1	
その他の細菌		4	2														1	
その他の病原体		1	3															

### インフルエンザの治療薬

新型インフルエンザをめぐり緊急時対策が各国で検討されている。具体的にはタミフルの備蓄ならびにプレパンデミックワクチンの備蓄であり、既に医療関係者などに対して事前接種する臨床研究が始まったが、流行後に作られるパンデミックワクチンとは異なり効果については未知数との課題は残している。さて、毎年流行するインフルエンザに対しての治療薬としてはアマンタジンとノイラミニダーゼ阻害薬があるが、アマンタジンはA型のみで耐性株、副作用の問題点がある。ノイラミニダーゼ阻害薬（タミフル、リレンザ）はアマンタジンに比して耐性ウイルスは少なくA型、B型の両者に有効で、発病48時間以内での使用に限られているが使用しやすい。しかし課題もある。オセルタミビル（タミフル）は十代の服用者に異常行動や突然死の問題が生じて社会問題となり、平成19年3月、十代患者への使用を原則中止として因果関係をめぐり種々検討されていたが、小児患者約1万人を対象とした調査（厚生労働省研究班廣田班）からアンケート結果の解析で、データの信頼性に限界はあるものの正の関連は検出できなかったと報告された点である。もう一つの課題はオセルタミビル（タミフル）のA/H1N1耐性ウイルスの存在である。日本は一人当たりの使用量が世界の中で最も多い国であるものの耐性頻度の報告は約1%以下と低いが、むしろ使用量が少ない欧州からの報告では当初1%未満であったのがノルウェー67%、EU諸国全体でも約20%以上の頻度で検出され自然発生的な耐性変異株と考えられ、流行株同様感染効率を持つことが分かっているので、今後は耐性株の動向には注意が必要である。

（文責 沼口小児科 沼口俊介）